

目指す学校像	未来に向かって力強く生きる ひとみ輝く 和土っ子の育成
--------	-----------------------------

重点目標	1 自分を大切に、相手を大切に学び合う学校 2 「チーム和土」でつくる持続可能な学校 3 コミュニティ・スクールの充実・活性化 4 安全・安心できれいな学校
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和5年2月8日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○基礎的・基本的な学習内容は概ね理解している。 ○学習に真面目に取り組んでいる。 ○学習において分からないところがあると、諦めずに取り組もうとしている。 〈課題〉 ○昨年度の学校評価児童アンケートNo10「進んで自分の考えを発表している」と回答する児童が少ない。 ○昨年度の学校評価児童アンケートNo7「よく本を読んでいる」と回答する児童が少ない。	○児童一人ひとりを理解し、学びがいのある授業の推進	①学年に応じたアクティブラーニング型(児童同士の学び合いを重視した授業)の授業と、ICT・デジタル教科書を活用した授業の実践を積み重ねる。 ②国語、算数においてドリルやドリルパーク、スタディサプリ等を繰り返し活用していく。 ③教育委員会による学力向上カウンセリング研修に基づいた授業改善を行う。	①学校評価児童アンケートNo11「勉強や運動にあきらめずに取り組んだ」・No12「授業はわかりやすく、楽しい」の項目で肯定的な回答が昨年度より上回ったか。 ②全教員が「アクティブラーニング型」の授業の実践と、日常的にICTを活用する状況になったか。 ③国語、算数におけるドリルやドリルパーク、スタディサプリ等を繰り返し活用することができたか。 ④学力向上カウンセリング研修後、授業改善をすることができたか。	①学校評価児童アンケートの結果、昨年度と比較して、No11は-2.2p、No12は+0.6pであった。 ②管理職の教室訪問において、「アクティブラーニング型」の授業を数多く確認できた。また、学校評価児童アンケートの結果から、ICTの活用は、昨年度と比較して、+0.9pであった。 ③特にドリルパークは、日常的に活用できた。スタディサプリ(3年生以上)は、活用方法の工夫改善を図る。 ④研修後、日常の具体的な場面を想定した課題提示等の工夫改善に取り組めた。	B	【課題】粘り強く学習に取り組めるようにすること。 【改善策】ICTを活用しながら、「教師が教える授業」から「児童が自ら気付き、学びとる授業」へ転換の推進 ・アクティブ・ラーニング型授業(児童同士の学び合いを重視した授業)の一層の推進 ・基礎・基本の定着	・分かりやすい授業を行うために、動画や、プロジェクター等のICT機器の活用をさらに推進してほしい。 ・昨年度の数値を超えている本の貸出冊数だが、貸出冊数を増やす取組を着実に進めてほしい。
		○学ぶ楽しさを実感できる学習の推進	①「STEAMS教育」「SDGs教育」「プログラミング学習」を着実に実施する。 ②図書を紹介を随時行う等、読書活動を広めていく。	①「STEAMS教育」「SDGs教育」「プログラミング学習」の成果と課題をまとめ、次年度に向け工夫改善に取り組めたか。 ②学校図書館の一人あたりの貸出冊数を増やすことができたか。	①成果と課題を共有し、題材や学習過程の工夫をすることができた。 ②学校図書館の貸出冊数は、1月19日現在4926冊。昨年度の約80%。昨年度の一人あたりの貸出冊数を増やす取組を今後も継続していく。	A	探究的な学びの推進 ・「STEAMS教育」「SDGs教育」「プログラミング学習」等の工夫と改善	
2	〈現状〉 ○新型コロナウイルス感染症の感染予防対策に努め、異学年交流等を再開している。 ○児童一人ひとりに声をかけ、目を配り、安心できる信頼関係の構築に努めている。 ○日々の校内巡視と計画的な安全点検を実施している。 〈課題〉 ○児童一人ひとりに対応する指導力の向上が求められている。 ○木々が多くあるため、計画的な樹木剪定が必要である。	○一人ひとりの児童に向き合う機会の確保	①業務改善を進め、児童に向き合う時間が確保できるようにする。 ②児童・保護者の話に傾聴できるようにする。 ③和土小スマイルプロジェクトに着実に取り組むようにする。	①児童一人2回以上の面談ができたか。 ②学校評価児童アンケートNo1「学校に行くことが楽しみ」で肯定的な回答90%以上となったか。	①機会をとらえて、児童一人に対して2回以上の面談を行うことができた。 ②学校評価児童アンケートNo1は、肯定的な回答が90.4%となった。	A	【課題】さらにコミュニケーションを大切にすること。事故防止の意識を高めること。 【改善策】信頼関係に基づいた指導のさらなる推進 ・「和土小スマイルプロジェクト」の着実な実施	・学校評価児童アンケートNo1の肯定的な回答9割以上は素晴らしい。 ・縦割りで遊び・清掃など異学年交流ができていてよい。 ・月毎のアンケートに基づいた児童との面談はよい。気になる児童の対応も継続してほしい。 ・管理職の校内巡視は、教員を育て、そして児童も育てることにつながるのよい。 ・樹木伐採は、危険性があるので、教育委員会と引き続き連携してほしい。
		○安心・安全な学校施設の維持管理	①日々の校内巡視と計画的な安全点検の結果、修繕箇所への2日以内対応ができるようにする。 ②教育委員会と連携し、計画的に樹木伐採ができるようにする。	①日々の校内巡視と計画的な安全点検が実施できたか。 ②修繕への2日以内の対応ができたか。 ③教育委員会との連携によって、計画的な樹木伐採ができたか。	①毎日の管理職の校内巡視と、教職員による計画的な安全点検が実施できた。 ②2日以内に修繕への対応ができた。 ③教育委員会と連携した樹木伐採は、あまり進まず、職員で対応してきた。	B	【改善策】リスク管理能力の向上 ・計画的な安全点検の実施 ・教育委員会との連携 ・予算の適切な執行	
3	〈現状〉 ○学校運営協議会では、目指す児童の姿について共有している。また、和土小ハローウィーク(毎月3週目)に取り組んでいる。 ○学校Webページを月2回更新している。 〈課題〉 ○学校運営協議会で共有した目指す児童の姿を家庭と地域で一層共有する。また、和土小ハローウィークを地域に広める。 ○開校150周年の思いを共有する。	○目指す児童の姿の一層の共有化	①児童の活動を中心に本校Webページの計画的な更新をする。 ②学校校運営協議会・SSNの取組を本校Webページで紹介する。 ③和土小ハローウィークの取組を複数の自治会へ協力依頼をする。 ④学校運営協議会やPTAと連携し、開校150周年に関する行事等の計画ができるようにする。	①学校Webページの月2回以上の更新ができたか。 ②学校運営協議会・SSN等の情報発信を本校Webページでできたか。 ③和土小ハローウィークの協力を自治会へ広めることができたか。 ④来年度の開校150周年に関する行事等の準備ができたか。	①学校Webページの月2回以上の更新ができた。 ②学校運営協議会の様子や会議録を学校だよりや学校Webページに掲載し、周知を図れた。 ③全自治会に協力依頼を行うことができた。 ④開校150周年記念事業実行委員会を立ち上げ、開催日時や事業内容を決めることができた。	A	【課題】学校や学校運営協議会の更なる理解を図ること。 【解決策】保護者や地域の視点に立った情報発信 ・学校だより、週報等の着実な発行及び学校Webページの計画的な更新 ・学校運営協議会の活性化 ・開校150周年記念事業の実施	・休みがちな児童に対して、学校・家庭・子どものどこに課題があるのかをよく考えて対応してほしい。 ・マスク生活なので、人と慣れることの経験が足りないことが後々響かないように、見守ってほしい。
		○和土小ハローウィークの充実	①児童への積極的な称賛や、学び合う中で他者を認め合いができるようにする。 ②学校課題研修として学期1回の校内授業研究会を実施し、方策の共有ができるようにする。 ③学期一人1回の管理職による授業観察が実施できるようにする。 ④教職員同士の授業参観が随時できるようにする。 ⑤教職員の声や他校の取組を生かし、質的な業務の改善を行う。	①児童同士で互いを認め合う姿が見られたか。 ②心と生活のアンケートにおける信頼自己の肯定的な回答が50%以上になったか。 ③校内授業研究会・管理職による授業観察・教員一人5回以上の授業参観が実施できたか。 ④質的な業務改善を行い、教職員の平均在校時間の縮減ができたか。	①児童同士が認め合う場面を意図的に設定し、認め合う姿が見られるようになってきた。 ②心と生活のアンケートにおける信頼自己の肯定的な回答が約45%であった。 ③校内授業研究会・管理職による授業観察は計画的にできた。教員同士の授業参観は、参観方法を検討して、進める。 ④教職員の声を生かし、メールでの教育相談の申込等の業務改善を行った。しかしながら、Withコロナで行事等も以前に戻りつつあり、行事等の準備の時間も増えているので、一層平均在校時間の縮減を検討する。	B	【課題】自己肯定感を高めること。業務改善が停滞していること。 【解決策】校内の研修方法の改善 ・校内研修の着実な実施 ・キャリアに応じたOJT 【解決策】教職員の声を生かした校内業務改善の推進 ・小規模校を踏まえた業務改善 ・勤務時間を意識した業務改革	

